



### 創業昭和67年

# さ ろ ん

## さろん亭繁盛

〈サロン・あべの〉8月の出会い

平成15年8月3日(日)、〈サロン・あべの〉8月の出会いは恒例の「あべのカーニバル」での「さろん亭」の開店です。

今年の「あべのカーニバル」は第30回目を迎えました。気になったのは、やはり当日の天気でした。近畿地方も梅雨明けをし、8月の第1日曜日この日は、

快晴の良い天気となりました。

1時頃、「さろん亭」開店準備のため「あべのカーニバル」会場である市立工芸高校のグラウンドへ向かいました。グラウンド内の「なんでも市通り」の中では多くの店が出店します。その一角の「さろん亭」のテントの中では、皆さんから提供していただいた

品物がところせましと並べられてゆきます。

「さろん亭」の開店準備中もお客さんが掘り出し物がないか、あるいはお買い得な物はないかと品定めがなされます。中でも石鹸やタオルなどは、まとめ買いをされる方もおられました。

「さろん亭」には普段阿倍野区でお世話になつていらっしゃる方々や久しぶりに顔を出される方もおられ嬉しいかぎりです。そして、無事閉店となりました。

毎年なのですが、品物を寄贈していただいた方、前日の値段付けや品物の搬入、当日の販売のお手伝いや後かたづけなど、本当に多くの皆さんにお世話になりました。

ありがとうございました。今年も多くの皆さんに支えられた「さろん亭」でした。(山村貴司)

お知らせ

<サロン・あべの> 10月の出会い

内容…私がなぜ、写真に興味を持ったか  
 お客さま…関 市三さん

(大阪市住之江区身体障害者団体協  
 議会・写真教室)

日時…10月18日(土) 午後1時～4時

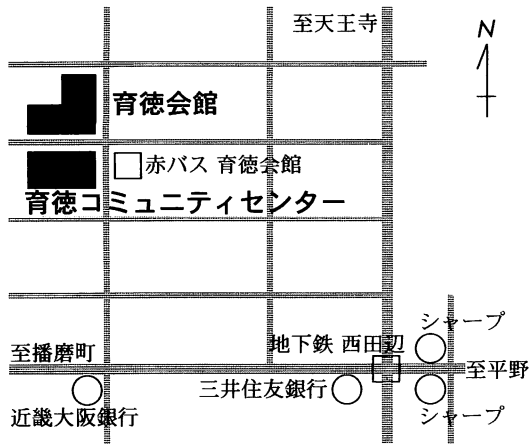
場所…育徳コミュニティセンター2階  
 研修室(スロープ・車いすトイレ有)  
 大阪市阿倍野区阪南町5-15-28  
 TEL 06-6621-1901  
 最寄り駅=

地下鉄御堂筋線「西田辺」  
 赤バス「育徳会館」下車すぐ

会費…なし

問い合わせ先…

TEL 06-6691-1028 (富田慶子)



□お世話になりました□

「さろん亭」出店に際しましては、品物のご寄贈、品物の値段付けや搬送、販売のお手伝いなどいろいろご協力いただきました。お陰さまで金58945円の収益がありました。この収益金は、今後のサロン活動の運営資金に有効に使わせていただきます。

ありがとうございます。

カンパ・お茶・お茶菓子・バザー用品のご寄贈、サロングッズのお買い求めなど、ありがとうございました。(敬称略・順不同)

秋本美智子、安達尚子、阿倍野区肢体障害者協会カークラブ(井上昭一・辻本輝子・山梨徳治)石原栄、伊勢村和子、井上礼子、上平幸雄、大谷美津子、加賀谷正、風智恵子、釜池潤野、川村明美、蔵田均、黒羽玲子、桑田加代子、神城昭子、セルフ社、阪口悦子、

定兼万代子、下村実幸、杉山蔦枝、大丸久美子、高尾澄男、竹下洋子、竹村定子、田辺サカエ・徳孝、田村能子、出口正敏、手島八重子、辻本輝子、辻本浩江、富田慶子・十一、中村宣子、中村久子、原田咲子・友弥・仁・博子、久木浩、表谷恵美子、藤井さゆり、藤谷充代、松村順子、松本克代、丸山寿美子、八木千代、倭栄司、山野莊一、山本鈴子、山本敏子、山村貴司、山村久子、吉原和郎、芳村和子、その他の方々。

## 誰でも参加できる場所へ

## 第16回

夏の作業はいろいろ続きます

林 典生

とうとう夏真っ盛りの7月を迎えました。最近、夏の作業をした後で、夏野菜を収穫することが恒例になりました。今はナスとキュウリが山のようになっており、参加されている方々にはお土産に持って帰ってもらっています。

しかし、そのお土産にしても、夏の作業はいろいろあります。まずは草取りです。これは日本では園芸作業の中で一番重労働になるものとして、それをいとわずに行おうとすれば、大変なことになります。

実は草が生えないようにするには、草取りをしないというのが正解ですが、それ

はせっかくの野菜までも枯れてしまいますので、草取りをしないわけにはいきません。ちなみに果樹園では案外雑草は伸ばし放題にしている時がありますので、草取りをしていないわけではないので注意してください。

また大変なのが、水遣りです。植物を育てるには水遣りに始まり、水遣りで終わるといった状態です。植物にとって水は、人間にとつての血液と同じぐらい重要なものです。かつ、人間の100倍以上の水を必要とするので、結構侮ることは出来ないのです。しかし、植物は水を求めて根を伸ばすことはあつても、植物が水のあるところまで移動することができませんので、水を与える必要があるわけです。

その水を吸って、植物が生長して（成長は単に大きくなるだけです）、生長は花が咲き実をつけるという意味が含まれます）、おいしい実をつけてくれるとなると、精も出きます。

そして、その実を収穫すると、切った先から瑞々しいほどの水がいつぱい出てきて、現場で食べるとどれほどおいしいか、書き

表すのが難しいほどです。

それを理解することが出来るのは、現場で、暑い中で、いろんな作業を行う中で、活動現場で、食べるからです。

アメリカでも実際の管理を行う話はあるはず、表面的なきれいな話しか出ていない部分もありますが、実際の活動を行うには日々の管理が重要になるわけです。日々の管理を重視せずに行うと結構大変なことになります。

日本でも園芸でまちづくりしようという様々な動きが出ていますが、失敗する原因としてまず挙げられるのが、日々の管理が特定の人に集中するので、その人が燃え尽きてしまい、その人が辞めてしまうとその活動を維持するのが難しくなります。つまり、活動を行うノウハウが個人の中に取り込まれて、他の人にも共有できるように蓄積されていないので、辞めると消えてしまうことになります。

それがないようにするには活動分担を明確にしていく必要があるのですが、それをするにもいろんな人が入らないことには実行するのは難しいと思います。

時間がない



Mi

サロンの原稿を書く時期になって、さあ、何を書こうと考えると「時間がない」ということしか思い浮かばない。あと何日まで、あれをしなければ、これをしなければと、そんなことばかりを考えて日をすごしているらしい。

とはいえ、テキパキと仕事をしているわけではない。ダラダラと部屋を掃除したり、インターネットに何時間も費やした

りで、本当に効率の悪い時間の使い方をしている。夜にはワインなどを飲んだりして、酔っ払ってしばらくブーツとしていることもある。

焦って、ときどき徹夜に近い状態で朝まで机に向かっていることがあるが、午前二時を過ぎるころになると、頭もぼんやりして働かない。夜明けが近くなって、チュンチュンと雀の鳴く声を聞くと、あわてて布団にもぐり込むのだが、次の日は寝不足で、いつそう効率が悪くなるようだ。

「時間管理術」と言った本を何冊読んだかわからない。ある本などは一日を十五分間ずつに細かくわけて計画することを提案していた。その約束された輝かしい成果に幻惑されて、私も「貴重な時間」をかけて十五分ごとに升目をつくった日程表を作ったが、三時間もしないうちに嫌になった。

また、十五分ほどの短時間の睡眠を何回か昼間にとることで、夜間の睡眠時間を短

\*好評のエッセイ\*

岡 知史著

知らされない  
愛につて

700円

ほんの少しの  
神に近い部分

700円

くできるという本もあって、それを実行したが、昼間に十五分間だけ眠るというのは至難の業であって、私の場合、眠ったら二時間の時間が減ってしまったことがある。

全体として仕事の量を減らすということ、私の「時間管理術」の数少ない成功例のひとつである。とにかく不義理だとか、尊大だとか、怠惰だとか、とにかく何と思われようが、最低限の仕事しかしない。つまり講演の依頼、雑誌の寄稿依頼、本の分担執筆の依

## エコひも

「塵も積もれば山となる」と言われるように不用品物ほど、気づかないうちにたまってしまいます。日常生活から出るゴミも週2回の収集車が来る日には、大きなゴミ袋が満杯になるほどたまっていきます。ゴミ問題や自然環境についての話は、新聞やテレビなどでもよく取り上げられ話題にもなっています。地域生活の中で処理できるゴミであれば、自分たちでも何とか出来そうと思えますが、世界最高峰のエベレストがゴミの山と報じられても特定の人の問題と考えてしまいます。水や空気が汚染され何らかの影響が出て来ていると言われても、目の前でその実態を見なければそれが実感出来ない弱さを持っています。

何をどうすれば、環境にやさしいゴミ処理になるのか分からないのが現実ですが、そのゴミや環境問題の活動を地道に続けておられる方から「エコひも」の試供品をいただきました。古紙（新聞・雑誌）を束ねるための「ひも」で、古紙100%の再生紙から出来ていてコヨリを太く丈夫にしたような「ひも」です。この「エコひも」には、環境に関する様々な思いと未来への願いが込められているのではないかと感じました。 (け)

## ……さきみみずさん

「頼、そういうものは、ここ数年ほとんど断っている。」  
旧友から「久しぶりに東京に来たので会わないか」と言われても断っている。取材を申し込まれても、別の人を紹介して、できるだけ会わない。勤務先の大学の卒業生が近況を知らせてきても、「じゃあ、また大学の研究室に顔でも見せにきてよ」とは決して言わない。外から見れば、社交嫌いの変人かもしれない。

しかし、いくら時間があっても、ぼんやりと過ごしては、どうにもならない。集中力が肝心なのだが、それが、どうもうまくいかない。  
集中できないのはなぜかと反省してみると、集中できないとき、「集中できるようになるまで」別のことをしている自分に気がつく。たとえば、集中できるようになるまで部屋を片付けていたり、新聞を読んでいたりする。しかし、冷静に考えれば、そんなこ

とをしているうちに集中力がどんどん出てくるはずがない。  
それで、私がいま思いついたことは、集中できるまで他のことを一切しないということである。この方法がうまくいくかどうかは、また次回のサロンの原稿で発表したいと思う。（とはいえ、この原稿も久々に締め切りに間に合った。この集中法？が良かったのだろうか。） (知)

# 植物あれこれ

56

山口康二郎

花は育てるもの

日本は冷夏、中国大陸は豪雨、ヨーロッパは猛暑の夏。

先日フランス留学から帰った知人のお嬢さんに猛暑の様子を聞きました。

7月から気温がどんどん上がり、連日38度から40度になり、熱中症で倒れる人を何度も目撃したとのことでした。異常気象は地球規模で起こっています。そして気象情報ほとんど当たりません。確か5月に出された3カ月予報では、日本の夏は高温と

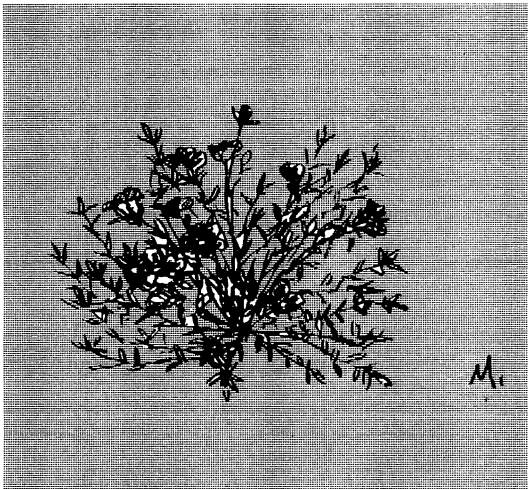
発表されたように記憶しています。

さて、このお嬢さんにフランスやその周辺の国の花屋さんの様子を伺いました。第一印象は、日本よりカラフルだということ。さらに、根掘り葉掘り尋ねていくと、共通しているのは、花の咲いた鉢は立体的に飾っており、彩りを考えたレイアウトがしてあるとのことでした。「それと・・・」としばらく考えて、「そう、花苗が小さかったです。日本のように花がいっぱい咲いた苗はほとんどありません、せいぜい蕾が1・2個付いたくらいの苗が売られていたようでした」と付け加えてくれました。

私が聞きたかったのは実はこの事だったのです。以前にも誰かから聞いた覚えがあったからです。ガーデニングブームで、いかにも花や植物を育てる人が多くなったといわれていますが、本当に花を育てているのだろうかという疑問があるとする意見として聞いた言葉でした。ヨーロッパでは、草花の苗は花が咲き出すと、そちらに力を取られて、植えても根張りが良くない。そのため植え付け後の生育は良くなく、寿命も短

い、とみんな知っているのです。小さい苗を植えれば、育てて咲かすという楽しみも味わえることになります。しかし、日本では花が咲いた苗しか売れないのが現状だと聞いています。

園芸とは、咲いた花を飾るのではなく、植物を育てて愉しむことなのです。それにはまず、根がしっかりと張ってからでないと育たないと言うことを心得ておいて欲しいものです。



# 美智子のこんな話

岸田美智子

グループホームを考える大阪のつどい

前回、福祉ホーム「あいえる」の事を紹介しましたが、この福祉ホームとよく似ている障害者の地域での生活形態であるグループホームを考える大きな集会在11月3日にあります。記念講演は、このグループホーム

ですが、最近補助金を削られたりして、身体障害者のグループホームは1年に1件ぐらいしか予算的に難しくなってきたりしています。今一度、グループホームの役割を考え、社会にその必要性を訴えていきましょう。

「グループホームを考える大阪のつどい」——ひろげよう・よくしよう・まちの中に——

コンサート活動20年

## 奥田真祐美リサイタル 大阪公演

日時=11月15日(土)  
開場18時 開演18時30分  
会場=サンケイホール  
06-6345-5065  
入場料=前売¥5000  
当日¥5500 (全席指定)  
演奏=西川 真・葉子 ストリングス・オーケストラ  
主催=奥田真祐美音楽事務所  
後援=関西テレビ放送  
お問い合わせ先=  
TEL・FAX 06-6692-8774  
(奥田真祐美音楽事務所)

制度を生み出した当時の職員であった、現・宮城県知事の浅野史郎さんです。大阪での自立生活運動を押し進める手がかりとなったこのグループホーム制度

とき：11月3日(月・祝) 午前10時〜午後

4時 [開場は午前9時]

ところ：ビッグアイ(国際障害者交流センター)

↓ [大阪府堺市茶山台1-8-1]

泉北高速鉄道「泉ヶ丘」駅下車すぐ

第1部：記念講演

宮城県知事 浅野史郎さん

「1948年生まれ。宮城県仙台市

出身。東京大学法学部卒業後、19

70年厚生省に入り社会局老人福

祉課課長補佐、在米日本大使館一

等書記官、年金局企画課課長補佐

を経て、1985年北海道庁福祉

課長。ここで日本初の公衆住宅を

使ったケア付き住宅の建設など障

害者福祉の仕事に出会う。198

7年9月厚生省児童家庭局障害福

祉課長。グループホームの制度化

を実現。たくさん仲間と出会い、

「障害福祉の仕事はライフワーク」と自認する。

1993年11月、厚生

省生活衛生局企画課長で23年7か月

勤めた厚生省を退職し、宮城県知事

選挙に出馬、当選。現在3期目」

第2部：当事者による体験レポート

資料代：1人11500円

で話合います。

今年の梅雨はなんだか薄ら寒くてしとしと降り続いたためにうんざりしていたのに、また秋の長雨のシーズンがやってきた。

だが秋の雨は「春の雨」や「夏の雨」とちがってしょう条と降るので、どことなく寂しい趣がある。この秋の長雨のことを「秋霖」または「秋つ雨」と呼ばれる。

雨の好きな人はあまりおられないのではないか。私は大きらいである。特に雨の日に外出するのは憂うつで煩わしい。しかし雨の大切なこともよく承知している。

ところで我が国はだいたい季節の変わり目に多くの雨が降る。それだけに雨にまつわる熟語もたくさんある。たとえば時雨、春雨、五月雨、梅雨、雷雨、夕立ち、

小糠雨といろいろな雨のつく名があり、これに関連したことばに雨だれ、雨宿り、花散らしの雨、雨脚などがある。

ジャーナリストのS氏が「こんなに雨に関することばがあるのは、単に雨に降られることが多いというだけでなく、日本の人々が毎回の雨の様子をきまこまかく認識していた証拠であろう」と言われている。

確かに私は雨がきらいである。でもS氏の言われるように一度、雨の様子をきまこまか

く観てみようと思う。そうすると今まで気づかなかった雨の良さや楽しさが分かり、好きになるかも知れない。

窓外の秋霖を何気なく眺めていると、こんなことが頭を掠めたのである。

## 晴れのち晴れ 60

秋霖に思う

稲垣 恵雄



サロンの

# 絵はがき

5枚1組 ¥180

＜サロン・あべの＞の活動資金調達にご協力をお願いします。





**SALOON**

**読者ニュース**

■「サロン淀川」10月の出会い

日時：10月19日(日)午後1時30分～4時  
内容：和太鼓&津軽三味線・三線のライブを満喫してください

～日本の伝統楽器の素晴らしさと懐かしい響きを～

パネラー：蓮風<sup>れんぷう</sup>(村下正幸・友岡宣仁) or 新田<sup>にい</sup>脩氏  
時に激しく、時には蓮の花のように優しく包みこむ風を吹きならすユニット

場所：淀川区民センター「やすらぎ」  
大阪市淀川区三国本町2-14-3

会費：なし  
問合せ先：淀川区社協(ボランティア・ビューロー)  
☎06-6394-2900

E-mail: sorajii@iris.eonet.ne.jp

■「サロン・ひらの」10月の出会い

日時：10月26日(土)午後1時30分～  
内容：ハリーポッター 2  
場所：「にこにこセンター」

大阪市平野区平野東2-1-30

会費：500円  
問合せ先：安達 ☎070-5931-5299  
高橋 ☎090-4497-0635

■「サロン・にし」10月の出会い

日時：10月11日(土)午後3時～5時  
内容：みんなで手話を学ぼう！  
場所：西区在宅サービスセンター6階ビューロ室  
大阪市西区新町4-5-14

会費：なし  
問合せ先：関口 ☎090-4281-5641

■「サロン「アイ」10月の出会い

日時：10月11日(土)午後1時30分～4時  
内容：呼吸器と共に生きる  
パネラー：吉田憲司氏  
場所：「おかちやま」

大阪市生野区勝山北3-13-20  
会費：なし  
問合せ先：生野区社協(ボランティア・ビューロー)  
☎06-6712-3101

■「てくてく・すみよし」10月の出会い

日時：10月4日(日)午前10時～3時  
内容：秋です、山です。パーベキュー  
場所：大阪市信太山青年野外活動センター  
(和泉市伯太町3-12-86)

☎0625-4-29211  
集合場所と時間：JR阪和線我孫子町駅下りホーム  
午前9時45分

会費：2000円  
(ご飯類は用意していません)

申し込み締め切り：9月25日  
申し込みと問合せ先：山本篤江 ☎06-6692-8411

■「サロン・つるみ」10月の出会い

日時：10月5日(日)午後1時30分～4時  
内容：車いすから見てきた世界  
パネラー：宮脇淳氏

(サロン・にしスタッフ)  
場所：鶴見会館2階  
大阪市鶴見区横堤5-5-51

会費：なし  
問合せ先：鶴見区社協(ボランティア・ビューロー)  
田村 ☎06-6913-7070

■「サロン・にしよど」10月の出会い

日時：10月25日(土)午後1時30～3時30  
場所：西淀川区在宅サービスセンター「ふくふく」  
大阪市西淀川区千船2-7-7

内容：切手の魅力  
パネラー：宮崎隆正(まごころの集い社・切手部長)  
問合せ先：西淀川区在宅サービスセンター  
☎06-6494-0635  
中本 ☎090-9864-9678

■「サロンいたみ」10月の出会い

日時：10月18日(日)午後2時～  
内容：絵手紙  
場所：「伸幸苑」伊丹市寺町6-150  
会費：なし  
問合せ先：砂脇 ☎0727-84-0057  
(午後7時以降)

声で読書のお手伝い

音訳テープのご案内

音訳グループ「糸でんわ」のご協力で<サロン・あべの>紙第206号の音訳テープが出来ました。

■音訳テープ文庫

- (a) <サロン・あべの>紙は、第1号より第206号までそろっています。
- (b) <サロン・あべの>十周年記念誌「はあとが、はろー！」
- (c) 絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦)
- (d) 「ラジオたんぱ」放送「<サロン・あべの>平成7年5月の出会い」放送分(30分)
- (e) エッセー集「逃げた『ヨナ』～ボランティア活動の周辺～」(岡本栄一著＝糸でんわ音訳)
- (f) 「キミたちだけじゃ困るんだ～身障者だけで旅した十余年～」(山田誠 1995・2・22著＝糸でんわ音訳)
- (g) 「金子みすずへの旅」(島田陽子著＝糸でんわ音訳)
- (h) 「夕やけ空のオニヤンマ」(牧口一二著＝糸でんわ音訳)
- (i) 「ガベちゃん先生の自立宣言」(曾我部教子

著＝糸でんわ音訳)

- (j) 「セルフヘルプグループ」(岡知史著＝糸でんわ音訳)
- (k) 「名物 天王寺かぶら」(猿田博創作 難波利三監修＝大阪市立天王寺図書館制作)
- (l) 「知らされない愛について」(岡知史著＝ぼけっと音訳)
- (m) 「愛 ひとり旅」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (n) 「奥田真祐美のシャンソン手帳」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (o) 「もうちょっと知っとく? 私たちの阿倍野」(難波りんご著＝糸でんわ音訳)
- (p) 「猫とシャンソン」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (q) 「ほんの少しの神に近い部分」(岡知史著＝糸でんわ音訳)
- (r) 「勁くしずかに」(河野勝行 編・著＝糸でんわ音訳)
- (s) 「たまごが ポン！」(稲垣恵雄著＝糸でんわ音訳)
- (t) 阿倍野名所旧跡いろはがるた(猿田博＝糸でんわ音訳)

ご希望の方には、ダビング、または貸し出しをします。富田 (☎06・6691・1028) まで。

寄りみち



<サロン・あべの>を、「さろん亭」を、何とか応援してやろう、という大勢の人のお気持ちに支えられて今年も店開きできました。ありがとうございます。来年も「さろん亭」の売れ筋の品を今から、心掛けておいてください。鬼に笑われてもかまいません、お願いします。笑われついでに贅沢なお願いをもうひとつ。衣料品は新品でも売れません。そして1度使った食器・小物類もあきません。(石)

<サロン・あべの>VOL. 207 発行：平成15(2003)年9月20日 定価¥100  
 編集人：<サロン・あべの>運営委員会 表題：中西利香・筆 文中イラスト：石田美禰子  
 事務局：〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>  
 TEL・FAX 06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの 00950-9-26941  
 印刷：セルフ社 〒546-0044 東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F TEL06-6719-8212  
 本紙はホームページでもお読みいただけます。書庫は、<http://pweb.sophia.ac.jp/~t-oka/salon/>